細胞生物学分科会
第 25 期・第 1 回 議事要旨

日時：令和 3 年 5 月 11 日（火） 16 時 00 分～17 時 30 分

場所：ZOOM によるオンライン会議

出席：小林委員、渡辺委員、大場委員、岡田委員、菊池委員、岸本委員、糸委員、
塩見委員、月田委員、東原委員、中野委員、西原委員、坂内委員、東山委員、
吉森委員、米田委員、遠藤委員

欠席：清川委員

審議事項

1．役員を選出

三村世話人より第 25 期分科会設置についての趣旨説明および確認があった。
その後、小林委員が委員長として推薦され、承認された。

2．役員を選出

選任された小林委員長より、副委員長として西原委員が、幹事として坂内委員と遠藤委員が指名され、承認された。

3．前回議事要旨の確認

菊池委員より、前回議事要旨の説明および第 24 期分科会の活動の概略が説明され、計画していたシンポジウムや講演会等が延期になったことの説明があった。また、だれを対象にどのような形式でシンポジウムを行うかについては、分科会として継続して議論すべきである旨が申し送り事項として伝えられた。

4．第 25 期の分科会活動について

学術会議総会で議論された学術会議の意義や今後のあり方について意見交換が行われた。特に、安全保障や軍事研究と研究活動との関連や、広く市民への理解を得ることの重要性と情報発信の方法についての意見が示された。

5．第 12 回形態科学シンポジウムの開催について

昨年延期になっていた第 12 回形態科学シンポジウムについて、2021 年 8 月 20 日に松田先生、大隅先生による講演、および、渡辺委員、小林委員、月田委員、西先生をくわえたパネル討論会を、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会と合同で ZOOM によるオンライン開催で行う計画が説明され、承認された。

6．その他

DORA (San Francisco Declaration on Research Assessment) : 個々の科学者の貢献を査定する際に雑誌ごとの評価を用いないこと、についての情報提供と問題提起がなされた。これを機会に、雑誌購読料や投稿料の高騰、税金を使ってなされる研究成果の発信方法 (バイオアーカイブや学会誌、リード&パブリッシュモデル)、日本における学会や学会誌の多さ、研究評価方法のあり方など研究成果の公表および評価方法を見直す必要があるだろうという意見が多かったです。

以上